

KOBELCO

KOBELCO

夏季号

Aug.2019.Vol.245

# コベルコ建設 機械ニュース

コベルコ建設  
機械ニュース

Aug.2019 Vol.245 夏季号

〒141-8626 東京都品川区北品川5-5-15 コベルコニュース編集部 ☎03-5789-2117

www.kobelco-kenki.co.jp

コベルコ建機株式会社



# VIEW THE FUTURE

作業時の視界と作業性を追求した新機能。

Mastertech-Gシリーズ・BM-Gシリーズに、オペレータの視界と操作性を追求した新機能を搭載！MLモニタの位置・角度と、インターフェイスレイアウトが、フレキシブルに設定可能となりました。

**Mastertech** G series

**BM** G series



特集 サービスの力、コベルコの流儀

www.kobelco-kenki.co.jp

東京本社 / 〒141-8626 東京都品川区北品川5-5-15 Tel:03-5789-2111

コベルコ建機株式会社

# サービスの力、コベルコの流儀

コベルコ建機は、日々の安定した稼働を支えるサービスこそが、お客様満足の基本であると考え、新たなサービス体制を確立いたしました。そこで今回は、コベルコ建機のサービス姿勢や組織について、社員の声やお客様の事例も交えてご紹介します。

## 新生「コベルコ建機日本株式会社」 お客様満足度向上を目指して

2019年4月1日、これまでコベルコ建機の国内販売を担ってきた東日本コベルコ建機株式会社と西日本コベルコ建機株式会社は、新たに「コベルコ建機日本株式会社」として経営統合しました。新会社では統合を契機として、経営の効率化と営業力・サービス力向上、クレーン販売・サービス体制強化などを進めています。「お客様にとって唯一無二の存在となる」ため、今まで以上にお客様に寄り添い、課題を解決できる最高のパートナーを目指し、尽力していきます。

コベルコ建機日本株式会社  
代表取締役社長  
久慈正紀

### 国内全域の販売・サービスを担う、 日本事業会社として

このたび、コベルコ建機日本が産声をあげました。

振り返れば1999年、現在のコベルコ建機の設立と同時に、国内事業を受けもつ5つの販売会社体制でスタート。その後、2008年のリーマンショックによる国内市場縮小に対応すべく、翌年に東西2販社体制へと経営統合を図りました。さらに16年には、コベルコ建機とコベルコクレーンが統合。私たちもその後の市場変化などに対応するために、事業の効率化と最適な運営体制を追求・検討しました。その結果、メーカー直下で国内全域をカバーする日本事業会社を設立。販売・サービスの営業品質向上を目指したのです。

新会社は、単なる東西2販社の統合にとどまらず、経営体質の強化、専任体制の拡充などを基軸として、新たな環境変化に先んじた競争力のある企業体を形成するものです。これまで東西

2販社が各々築き上げてきたお客様との信頼関係や、知見などの強みを融合しながら、より多くの資源とパワーを、お客様サービスに注いでいきます。この姿勢、想いは代理店各社もまったく同じです。

### お客様価値を第一に、 明確なソリューションを提案

当社が目指すのは「お客様価値に視点を置いた課題解決型ビジネスモデルの構築」です。製品の差別化が難しくなっている昨今、私たちはお客様が抱える不安や不満などを解消する明確なソリューションの提供こそが、新たな差別化戦略であると考えています。つまり、「一番最初に選んでいただけるビジネスパートナー」を目指しているのです。

ここで大切なものは、予期せぬメンテナンストラブルなどによって、急遽「求められて動く」のではなく、お客様ごとのビジネスや建機の使われ方を見つめ、大事に至る前にあらかじめ「察して動

く」積極的な姿勢です。例えば定期点検などで、トラブルの予兆をいち早くキャッチし、事前の整備を提案することで、故障による無用のコストを抑制する。さらにマシントラブルによる休車など、経営の圧迫要因ともなりかねない機会損失の排除を実現します。

また、16年のコベルコ建機とコベルコクレーンの経営統合後も、クレーンの販売・サービス活動に関しては、主にメーカーであるコベルコ建機が行ってききました。今回、その機能の一部をコベルコ建機日本に移管することで、ショベルと同様、広い販売拠点網やサービスネットワークを活かしたクレーンの販売・サービス事業の強化を進めます。

### お客様満足を支える 組織体制と人材育成施策

私たちは、「ストックビジネスと整備対応力のさらなる強化」を掲げ、カスタマーサポート本部を新しくスタートさせました。ショベルサービス、クレーンサービス、部品販売をそれぞれ

独立した部として設置し、よりお客様に顔を向けた会社として、きめ細やかなサポートを推進します。

「お客様にとって唯一無二の存在」となる。言い換えれば「お客様が一番近いところにいるメーカーとなる」ことこそが、私たちコベルコ建機日本の経営哲学です。今後もそのような存在となれる社員の育成に注力していきます。その取り組みの一つとして、今年度から「コベルコテクニカルスクール(KTS)」を開校しました(※下記コラム参照)。近視眼的に見れば、入社後1年間の教育期間は遠回りかもしれません。しかし、「遠回りこそ近道」が私たちの人材育成思想です。当社はこの教育施策によって、若い人材が建設機械整備を「将来を託すのに価値のある仕事」として誇りをもって認識することが、業界全体のさらなる発展にも貢献するものだと思っています。

市場環境が大きく変わろうとしている今、コベルコ建機日本は皆様とともに歩んでいきます。



### コベルコ建機日本 企業内技術研修学校 コベルコテクニカルスクール(KTS)

コベルコ製品の修理・メンテナンスはもちろん、ICTの進化も見据えた教育に至るまで、基礎から実践までを一貫して学ぶ全寮制の企業内技術教育機関。ここでは、入社後12カ月間にわたる研修プログラムによるトータルな教育が実施されます。12カ月間の教育修了後には、若い人員一人ひとりが、あらゆる現場の最前線で活躍できる人材、すなわちお客様への貢献度が高い優れたサービスマンとして、巣立っていきます。

## コベルコ建機のサービス最前線【ショベル編】 現場対応力と予防保全力の融合で 解体工事のスムーズな進捗に貢献

コベルコ建機では、機械そのものの性能はもちろんのこと、サービス体制の充実もお客様に自らの機械が選ばれる大きな理由の1つと考えている。果たしてその実際はどうか。青森県で解体業を営む株式会社山本工業の代表取締役、山本徳光さんに話を聞いた。



代表取締役  
山本徳光さん

### 機械の性能はもちろん サービス力もコベルコ建機を高評価

株式会社山本工業は、青森県で木造家屋からRC造のマンションやオフィスビルに至るまで、さまざまな解体工事を手がけている。代表取締役の山本徳光さんは、創業者である父親の事業を継承し、10年前に現職へ就任。以降、経営者として解体業を進化させてきた。「私が入社した20年前は、解体業といえばキツイ、キタナイ、キケンという、いわゆる“3K”の代表のような労働環境で、当社も同様だったと思います。このままでは企業としての発展はないと考え、リサイクル法改正を機にその改善に力を注いできました。現在ではかなりの部分で見直すことができた」と自負しています」

そうした変化を可能にした施策の1つとして挙げられるのが、解体工事の積極的な機械化だ。山本工業がコベルコ建機の解体機を初めて購入したのも、同社が機械化に力を入れ始めた時



期。コベルコ機の導入は、危険を伴う仕事環境の改善に貢献し、解体現場の安全性向上に大きな効果をもたらしたという。「家屋やビルの解体工事は狭い現場が多いため、人が機械に巻き込まれる事故リスクが高かったのですが、コベルコの小旋回モデルを導入したことで、そうした危険を軽減することが可能になりました。それだけでなく、低騒音性や高い安定性で機械の揺れが少な

く、振動対策にも効果があり、周辺環境に対する影響も大きかったです」(山本さん)

以来、山本工業では解体機といえばコベルコ建機を選び続けている。しかし、山本さんはその理由を機械の優れた安全性能だけではないと語る。「解体工事という過酷な現場で使われる機械にとって、どうしても故障はつきもの。その点、コベルコのサービス対応には非常に満足しています。昨年、



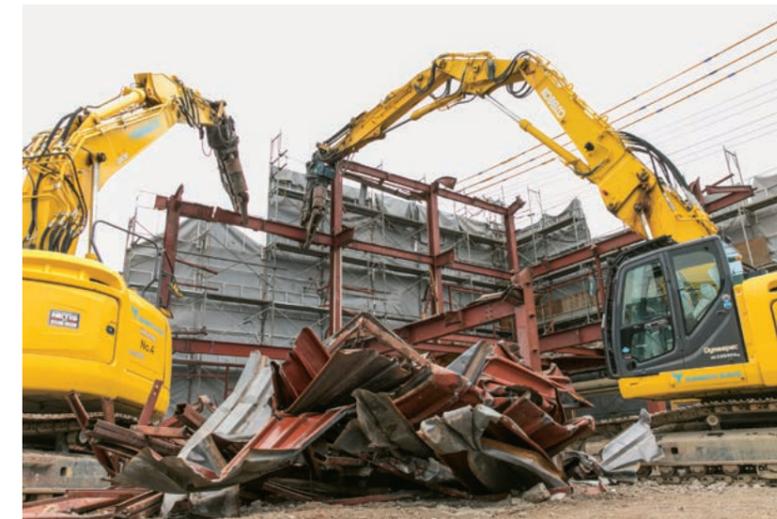
今回の訪問先は  
株式会社山本工業  
所在地／青森市駒込字桐ノ沢110  
☎017-741-4585



写真右がオペレータの藤林久芳さん。オペレータ歴18年のベテランだ。写真中央は工事部次長の野上隆さん。現場監督として本現場を取り仕切っていた。写真左がコベルコ建機日本・青森工場所属のサービスマン、織笠将樹



1.狭小地の解体現場には小旋回モデルが最適。周囲を必要以上に気にすることなく操作できると、オペレータにも好評だ。2.3階建ての鉄骨の解体に活躍するSK235SRDLC。1台が鉄骨を持ち、もう1台が切断する抜群のコンビネーションで解体作業を安全に行っていた



### サービス体制の充実が長期間 お客様に支持され続ける決め手に

山本工業のサービスを担当するコベルコ建機日本の織笠将樹は、業務に対するこだわりについて「現場対応」という言葉を口にする。「機械のトラブルについては、作業を止める時間を最小限にするため、できる限り現場で直すことを心がけています。そこで重要なのが、お客様に電話で伺う情報から故障原因を正しく推測し、それに必要な準備ができるかということです。そのために、日頃からお客様とはコミュニケーションを密にとり、話しやすい関係づくりに努めています」

そしてもう1点、心がけているのがトラブルを未然に防ぐことだ。普段からお客様の解体機の使い方を観察し、どこにトラブルが出やすいかを見極め、現場に出向いた際には常にその部分をチェックしているという。さらに、予防保全システム「Kスキャン」から

得られるオイル交換や定期点検の時期といった情報をお客様に提供することで、機械のコンディションを保つことも怠らない。

そんな織笠の仕事ぶりに対する評価は、山本工業の現場のスタッフたちからも上々。オペレータを務める藤林久芳さんはそのサポート力を高く評価している。「連絡すれば即座に駆けつけてくれるうえ、機械を工場に運ぶことなく現場でほとんど対応してくれるため修理も早い。迅速な対応にはいつも助けられています。トラブル時の説明も分かりやすく頼りになるので、機械を安心してまかせられます。その分、私自身は作業に集中することができる点も大変ありがたいですね」

オペレータの仕事ぶりにも好影響を与えているコベルコ建機のサービス業務。こうした充実のサポートを現状に甘んじることなく進化させ続ける限り、お客様にはコベルコ機を選んでいただけるはずだ。

## 会社がどんな状況であっても 出会った人とのつながりを大切に

日誠工業株式会社は、仙台を本拠地としながらも、青森から静岡までの広範なエリアで、杭打ちをはじめとした専門工事を中心に、土木工事全般を手がけている。そんな同社の社訓は「雲蒸竜変<sup>うんじょうりょうへん</sup>」。勇者や英雄が時機を得て、存分な活躍を見せるという意味だが、創業者である代表取締役の阿部誠さんは、「現状維持ではなく、常に上を目指す」と解釈している。その言葉

通り、いつの時代も専門工事に求められることを考え抜き、実行してきたという。他社のやらないことを手がけるのが同社の強みであり、さまざまな工法をメニューに加え、2020年には創業40周年を迎える。

「仕事の受注は常に80%程度でよしとしています。残りの20%は、過去お世話になったお客様の急なオーダーに備えるための余力です。当社を信頼して、「何とか頼む！」とお声がけくださるお客様には全力でお応えしたいですからね」（阿部さん）



コベルコ建機は、お客様に信頼していただけるサービスマン育成にも注力

## コベルコ建機のサービス最前線【クレーン編】 お客様との信頼関係が支える “現場を止めない”という共通認識

価値あるパートナーとして選んでいただくことを目指す、コベルコ建機のサービス体制。お客様は、それをどのようにとらえているのだろうか。  
宮城県仙台市の日誠工業株式会社を訪ね、その実際を聞いた。

### ◆今回の訪問先は

日誠工業株式会社  
所在地／仙台市宮城野区仙台港北  
一丁目1番地の7  
☎022-794-7487



代表取締役  
阿部 誠さん



中央左が阿部誠さん。阿部さんは東北基礎工業協同組合理事長のほか、各種業界団体の要職を務める。中央右が車両管理部長の伊藤憲雄さん。左端はコベルコ建機日本・営業本部の下島敏彦、右端がカスタマーサポート本部の知久和浩。マスターテック7070Gの前に話が弾む

受注産業としては浮き沈みがあるのも事実。困ったときに支えてくれたお客様の発注には万全の体制で臨みたい、という阿部さんの矜持でもある。仕事においては「人とのつながりを最も大切にしている」という。

日誠工業とコベルコ建機との関係も、人とのつながりと信頼関係から始まった。創業当初、同業者の紹介でP&Hの中古クレーンを2台購入。その後、他社機を使用していた時期もあったが、販売代理店の所長が独立したのを機に、再びコベルコ製のクレーンを導入することに。今では最近導入したTK550Gをはじめ、多数のコベルコ製クレーンを所有している。

阿部さんはコベルコ建機の商品や、サービスに対して次のように話してくれた。

「私たちにとって重要なのは、現場を

止めないことです。そういう意味では、コベルコのクレーンは故障が少なく丈夫、特に足まわりはよくできていると思います。また、パーツがすぐに届く対応力も評価しています」

### 休車時間短縮に向けて 相互に理解を深め信頼し合う

日誠工業の日々のサービスは、日通商事（コベルコ建機の指定サービス工場）が担当している。そのサポートを手がけるコベルコ建機日本・カスタマーサポート本部の知久和浩は、サービス姿勢についてこう語る。

「お客様もおっしゃる通り、現場を止めない、つまり休車時間をできるだけ短縮させることがサービスの命題です。現場で分からない不具合があった場合は、担当サービス工場にエラーコードを伝えるのがスピード対応につながります。最近私たちへの依頼で増加しているのは、整備講習の開催。これも現場を止めないために、できることは自分たちでやりたいというお客様の機運の表れだと思います」（知久）

また、日誠工業へのサービスサポートとして、日通商事といっしょに心がけているのは「お客様の工法、クレーンの使い方をよく見る」ということ。これは、予防保全に直結するからだ。現状不具合はないが、こうした工法での作業が続いているといずれこうなる、ということ伝えて、

事前に対策をすることは日誠工業にとっても無駄なコストを削減することにつながる。そのためには「クレーンの知識」と「使い方や工法の知識」を、サービスマンとオペレータがおたがいに理解し合うことが重要だ。

このように、サービスの現場にも阿部さんの信条である、「人とのつながり」が垣間見える。お客様、サービス工場、コベルコ建機日本が強い信頼関係で結ばれることが、機械の稼働を止めないことへの近道なのだ。

「弊社は、全機種にドライブレコーダーを付けています。なにかあった際の原因究明のためでもあります。社員一人ひとりに向けた安全性への意識改革という目的もあります」と、阿部さんは話す。

工事において安全はもちろん第一義。コベルコ建機も信頼されるサービスを通じて、お客様の安全にも貢献していく。



1.常磐自動車道4車線化に伴い、阿武隈（あぶくま）川に仮橋を架ける現場で稼働するマスターテック7070G  
2.郡山市内の高校の前、狭所といった悪条件の現場で活躍するTK550G

## お客様サポートを水面下で支える さまざまなサービスのカタチ

樹木は、天に広げた枝々と同じ容積の根を、地中深く張り巡らせています。コベルコ建機でも、お客様に向き合うフロント部門の背後で、さまざまな部署が皆様へのサービス充実のために、日々活動を続けています。ここでは、その一端をご紹介します。



### カスタムセンター

“No”と言わない努力で、皆様のご要望にお応えします

私たちは、基本的な組み合わせはもとより、独自仕様に基づくカスタマイズにもお応えしています。ここでは、ご要望を伺い見積もりをお出しして、十分にご検討のうえでご納得いただく姿勢を大切にしています。例えば、お客様ご自身が輸入された海外のユニークなアタッチメントを装着してほしい、という案件も少なくありません。もちろん、そのまますぐに取り付けることはできませんので、補助部品や治具を一から作り出すなどの努力を重ねています。さらに、今後末永くご活用いただくために、強度計算による安全確認なども行っています。

に対し十二分にお応えすることが、私たちの役割であり、その実現が技術者としての誇りや、やりがいでもあります。

また、「1日も早くビジネス戦力化したい」というのが、お客様のお気持ちのほうです。そこで精度アップと納期短縮・収益強化の両立にも十分気を配り、各分野の得意技をもった協力会社との連携強化をしています。

今後はさらに開発部内との連携を深め、カスタムを前提とした製品づくりや、汎用的な組み合わせのパッケージ化による工場出荷体制確立などにも、歩を進めていきたいと考えています。

いずれにしても、お客様のご要望



コベルコ建機日本(株)  
営業本部 カスタムセンター  
梶原良介(左)

### 品質保証

すべては、お客様のスムーズなビジネスを支援するために

日々お客様と向き合い、マシンの健康を見つめるカスタマーサービスから上がってくるお客様のご要望にお応えすることが、私たち品質保証部の使命です。

そこで第一に心がけているのはスピード感。すなわち、「お客様の業務を極力止めない」ということです。機械に生じた何らかのトラブルに対して、「どんな処置が必要で、復旧にどのくらいの時間を要するのか」という第一回答を正確かつ迅速にお出しすることに注力しています。また、「スクランブル(緊急)対応」のためには、開発や製造など複数の部門を巻き込んだ動きも重要です。それぞれの立場による立体的な視点か

ら、お客様のマシンに起こっている事態を見て、原因を追究し解決への最善策を探っています。

コベルコ建機は、迅速で正確な“対応”、市場リリース時点から高い完成度を実現する“できばえ”、そしてお客様ニーズを満たす開発の“狙い”が三位一体となったサービス向上を進めています。

これからも開発、製造からサービスまでを貫くトータルな視点で現場を見つめ、そこで獲得した知見を再度開発リソースにフィードバックする……。そんなポジティブなスパイラル構造を実現することで、お客様のビジネスのさらなる成功を支援していきます。



コベルコ建機(株) 品質保証本部  
品質保証部 クレーンプロダクトサポートグループ  
杉野瑠以(左)

### 部品センター

マシンの健康維持と戦力保持を、全力でサポートします

兵庫県の久保工場に隣接する部品センターでは、機械に必要なすべての部品をそろえ、専任スタッフが常駐。お客様サポートを担う全世界の販売会社や修理工場を支援しています。各種部品に関わるお問い合わせや、発注への迅速な対応を担う私たちの至上命題は「お客様のビジネスの最前線を担う機械を止めないこと」です。

そこで、ご注文に関してはできる限り、即日発送で対応。特に緊急性が高い場合には別途発送便を手配するなどして、タイムリーなデリバリーを実現しています。

また、定期点検や消耗品チェックなど、お客様の機械を見守る各種

キャンペーンを企画。トラブルを未然に防ぐための保全体制強化を推進しています。

適切な処方によって、マシンの現場貢献度と寿命延長を図ることこそが、私たちの願いです。例えばクレーンは製品寿命が長く、導入後30年以上を経たマシンが第一線で活躍しているケースも珍しくありません。そこで私たちは、部品保持期間の長期化や代替対策などにも力を注ぎ、ライフサイクルに合った部品の供給体制に取り組んでいます。

今後は、予防保全システムや稼働機管理システムとの連携をより深め、稼働を止めないための見守りを徹底していきたいと思っています。



コベルコ建機(株) マーケティング事業本部  
部品事業推進部 部品企画グループ  
高畑充宏

### ICTシステム

背後のシステムを意識させない「使い勝手」を追求しています

私たちは、主に社内各部署や国内外の代理店様にお使いいただくシステムの構築を担っています。代理店様が機械のユーザー様に提供するサービス品質の向上やユーザー様の機械の稼働維持、生産性向上に貢献することが主な目的ですが、そのビジネス要件をシステムに結実させるためには、業務を把握し、その課題を探って解決に導く道筋(=ロジック)が不可欠。ビジネス全体を眺望する全体最適の視点を大切にしています。

特に最近では、外出先やお客様の施工現場などで機動力を発揮する「モビリティ」がキーワードとなり、タブレット端末やスマートフォンをプラットフォームとした

開発に注力しています。ICTの専門家ではない方々のビジネス効率化や、生産性向上に貢献するシステムは、直感的に扱えるユーザビリティが重要。画面の色づかいやボタンの配置などにも、細心の注意を払っています。

また国際化が深まるなかで、地域や文化を越えて、誰もが扱えるユニバーサルデザインの実現が急務。目下、システム開発においても国際協調体制を進めています。モノトーンを基調にしたシンプルなデザインがトレンドであり、高い評価をいただいています。

この先は、さまざまなデータを一目瞭然と把握、分析でき、さらにはAIなどを駆使しながら、新たなサービス提供に取り組んでいきます。



旧新潟税関庁舎がある場所は創建以来変わっていないが、河岸が埋め立てられたことで信濃川とは100mほど離れてしまった。現在、発掘調査や資料をもとに船から荷を揚げるための石段が再現されているが、この荷揚げ場の位置が当時の河岸にあたる

## 歴史的 建造物誕生の 秘密を探る！

File.48

# 旧新潟税関庁舎[新潟県] 開港の記憶を今に

2019年1月1日に、新潟は開港150年を迎えた。当時の様子を今に伝える建物が旧新潟税関庁舎だ。税関施設は、関税事務を行うために幕末の開港五港それぞれに存在したが、建物が当時のまま現存するのは、唯一新潟のみである。

砂山幹博 = 取材・文 田中勝明 = 撮影  
text by Mikihiko Sunayama / photographs by Katsuaki Tanaka

## 前身は物流の大動脈・新潟湊 繁栄の一方で懸念も

開港の地、新潟港の場所を確かめようと地図を広げると、意外にも新潟港は二つあった。一つは、新潟市の中心市街地に近い信濃川の河口に。もう一つは、その河口から20kmほど東に離れた場所だ。聞けば、前者は佐渡や北海道を行き来するカーフェリーや国内外の旅客船が発着する海の玄関口として機能する西港区、後者は主に国外のコンテナ貨物を取り扱う東港区で、両方を併せて新潟港と呼ぶという。

150年前に開港した新潟港は西港区のほうで、なかでも長岡藩領（後に幕府領）だった信濃川の左岸（西岸）側に

あった戦国時代以来の新潟湊が前身である。

今でこそ河口が分かれているが、江戸時代の半ばまでは長野・新潟両県にまたがる日本最長の信濃川と、福島県と栃木県に源流をもつ阿賀野川は河口付近で合流していた。つまり新潟湊は、両河川の流域と外海を結ぶ物流の要衝だった。内陸からは米や木材、炭などが集まり、海からは塩や海産物などが流域に運ばれた。例えば、山陰地方で採れた鉄は日本海から信濃川経由で内陸の三条（新潟県三条市）へ運ばれ、同地の鍛冶職人が金物に加工した。後に世界にその名を知られる金属加工の町も新潟湊が中継する物流の大動脈のおかげで生まれたというわけだ。

幕府や諸藩の年貢米を積んだ廻米船や、商人の物資を載せて遠距離を航行する廻船の寄港地としても整備され、新潟湊は元禄の頃（1688～1704年頃）に最盛期を迎えた。ただ、どうしても避けられない欠点もあったと新潟市歴史博物館の学芸員、田嶋悠佑さんは指摘する。

「上流から大量の砂が運ばれてくるため浅瀬ができやすかった河口港の新潟湊には、水深が必要な大型船の入港は限られました。洪水のたびに流路が変わり、それによって生じる浅瀬のせいで船の航行が差し支えることもしばしばあったようです」（田嶋さん）

川底をさらい、土砂を取り去る浚渫工事ができるまでにはもう少し時代を

待たなくてはならず、当時の新潟の人々は例えば、川の水量が減らないように水利をめぐる周囲の農村と争うなどして水位の安定に努めたという。そんな不安定さをもつ河口港ながら新潟は、幕末に開港五港の一つに選ばれるのだ。

## 開港五港に選ばれるも 一転して訪れた危機

開国後の貿易のルールを取り決める修好通商条約が、アメリカ・イギリス・オランダ・フランス・ロシアとの間で結ばれ（1858年）、先に開港していた下田と箱館（現在の函館）のうち下田を閉ざし、新たに神奈川（横浜）・長崎・新潟・兵庫（神戸）が開港地に選ばれた。



1.開港五港のうち唯一、当時のままの姿を残す旧新潟税関庁舎は、1969年に国の重要文化財に指定された 2.石畳を敷いたアーチ状通路と、外光が差し込む大部屋の内壁はともに白漆喰仕上げ。間取りも創建当時のものが復元されている 3.石庫（いしぐら）は、税関に持ち込まれた輸出入貨物を一時的に保管した保税倉庫として使用された。1982年に復元された現在の石庫は、民具などを収めた資料庫として活用されている

ただし新潟は確定ではなく、「日本海側に一つ港を開くように」と五カ国が要求したため、幕府が仮に提示した港だった。

新潟にはさっそく調査のための外国船が来航するが、港としての評価は厳しいものだった。特に問題だったのが水深の浅さ。大型の蒸気船では港に入ることができないため、沖に停泊させて積み下ろしを強いられることに各国は難色を示した。また、入り江もないため、冬季には日本海特有の強い北風と荒波をまともに受けてしまうことで、危険な港だと判断された。各国が幕府に開港場の変更を申し出たため、新潟開港はいったん持ち越しとなる。新潟を推したのは幕府で、諸外国にしてみれば必ずしも開港地が新潟で

ある必要はない。代わりの港として天然の良港として知られる能登半島の七尾港（石川県七尾市）が挙げられたが、幕府はこれを退けた。七尾港は加賀藩領の港。すでに幕府の権威は斜陽に向かい、藩領の湊を取り上げるのは困難だった。その点、新潟は幕府の直轄地で勝手が良かったのだ。

結局、悪天候の際に寄港できる補助港として佐渡の夷港（両津港）も併せて開港するという条件で、新潟の開港が正式に決定した。すぐに開港に向けての準備が進められたが、途中戊辰戦争が始まって幕府が倒れた影響で、次いで政権を担った明治新政府が新潟港を開港したのは横浜や長崎に遅れること10年、1869年1月1日（明治元年11月19日）のことだった。

### 貿易不振がもたらした税関庁舎の数奇な運命

開港後しばらくして、輸出入貨物の取り締まりや税金の徴収などの関税事務を行う運上所、後の新潟税関が完成した（1873年に改称）。開港した港で中心的な役割を果たした運上所（税関）はまさに開港のシンボルとも言える存在で、建物にもそのことがよく表れている。

木造平屋建ての寄棟造り。屋根に赤瓦を葺き、外壁には漆喰をかまぼこ型に盛り付けたなまこ壁を施し、窓にはベンガラ色に塗装した両開きの鎧戸が備え付けられた。特に目を引いたのが中央の塔屋と白塗りのアーチ状のエントランスだ。それまでの新潟にはな



4.船の発着の確認や、密輸がないように入国船を見張った塔屋。約15mの高さは当時新潟随一を誇った 5.なまこ壁ときんちゃく型のガラス窓。地元の大工が西洋建築を見よう見まねで造った擬洋風建築と言われるが、随所に伝統的な和の意匠も見られる



信濃川の河口と西港区。護岸や埋立てで地形は変わっているが、開港時の新潟港は写真左側の左岸部分（●は旧新潟税関庁舎）

6.開港当時の運上所の様子。絵の右下に塔屋を掲げた西洋風の庁舎と石庫が確認できる（「新斥税館之図」勝川九斎／筆 明治2（1869）年 新潟県立図書館蔵） 7.移築された歴史的建造物が集う新潟市歴史博物館「みなとびあ」の敷地内で、往時の姿を伝える旧新潟税関庁舎



かった西洋の意匠を真似て、日本の大工が日本の建築技術を駆使して造ったいわゆる擬洋風建築である。

「設計者は不明ですが、開港事務を担当する役人の指揮の下、地元の大工の棟梁が中心となって建てられました。外国人に見下されないよう、彼らに見られることを相当地意識したと思われる意匠を採用しています」（田嶋さん）

そんなハイカラな建物を構える新潟港に、開港の1869年に18隻、翌年には20隻の外国船が入港した。主な輸出品はヨーロッパで不足していた蚕卵紙（蚕の卵が産み付けられた紙）で、輸入品は69年にはライフル銃などの武器や毛織物。翌年は武器の代わりに化粧石鹸や白砂糖などが入ってくるが、その後、外国船の入港はパタリと

止んだ。理由は、やはり大型船が接岸できず沖への停泊を強いられたことが大きかったようだ。

「結局、外国からほとんど物が入って来ない時代が続き、1966年に新潟税関庁舎はその役目を終えます。ただ、税関がもしにぎわっていたら、増改築などで創建当時の姿は早々に失われていたかもしれません。開港した時と同じ場所、同じ姿で建物が残っているのは、皮肉にも貿易不振のおかげだったといえるのかもしれない」。こう田嶋さんが話すように、旧新潟税関庁舎は開港五港に存在した税関庁舎の中で唯一創建時のまま現存する建物だ。

貿易は振るわなかったが町は大きく飛躍した。開港以降、「開港場にふさわしいまちづくり」が加速したのだ。

幕末の時点ですでに人口約3万人という越後第一の都市だったこともあるが、開港場であったため新潟市には県庁が置かれた。政治都市としての性格も加わり、悲願だった港の近代化も段階的に進められた。そして、現在、二港区におよぶ国際貿易港となったのは冒頭の通りだ。

かつて新潟随一の高さを誇った約15mの塔屋も、今では周囲の高い建物に埋もれている。その姿に、本来の役割を十分に果たせなかった肩身の狭さを感じなくもない。それでも開港から今日まで変わりゆく港町の風景を、港を行き来する船を、150年間にわたり、見守り続けてきた。新潟市の人たちが、この建物を「港町新潟の原風景」と誇りに思う気持ちも理解できるだろう。

歴史的建造物誕生の秘密を探る！

File.48



## 経営のヒント

設備投資編

静岡県富士市  
株式会社イーシーセンター

# 設備投資は現場の声で。 作業の課題解決により成長を促進。

経営において、設備投資は重要なファクターだが、間違った部分にお金を使っていたのでは元も子もない。静岡県富士市で建物解体とリサイクル事業を手がける株式会社イーシーセンターでは、作業の課題を知る現場の声を判断材料に、適切な設備投資を実施。創業40周年を控えた現在も、発展を続けている。

山田高弘 = 取材・文 岩井康浩 = 撮影  
text by Takahiro Yamada / photographs by Yasuhiro Iwai

### 現場視点による設備投資で 作業の生産性向上へ

株式会社イーシーセンターは、建物解体業者として1980年に創業した。「できないと言わずにやってみよう」を社訓に、新たな事業分野にも積極的にチャレンジし、2002年には廃棄物の中間処理業にも進出。現在では、解体で生じた建設廃材から、製造業が排出するさまざまな産業廃棄物まで処理できる屋内型工場を有し、静岡県を代表する総合リサイクル企業としての地位を磐石にしている。

取材に訪れた富士ステーションは、同社が誇るリサイクル工場の1つ。本施設は取り扱う廃棄物ごとに4つのプラントが設置されており、ここでは計5台の重機が廃棄物の選別や投入作業に活躍していた。こうした重機の購入という設備投資は、現場の要望をほぼ100%尊重すると話すのは、代表取締役社長の海野幸男さんだ。

「重機などの設備投資は現場の課題を解決し、生産効率を高めるのに有効な手段。現場からの要望があれば惜しみなく応えるというのが当社の経営方針です。その点、コベルコ建機は、現場

ニーズに即した製品を開発していることから、当社では非常に高く評価しています。以前は他メーカーの重機をメインに使用していたのですが、近年はコベルコ機を選ぶことが多くなってきているほどです」

イーシーセンターにおけるコベルコ機への高評価は、初導入となった8年前から始まった。完全屋内型の富士ステーションでは、廃棄物が納入されるとプラント内に粉塵が舞い、重機のオーバーヒートの原因となっていたが、それを解決したのがコベルコ独自のiNDR搭載機だったのだ。吸気口に

“重機の購入には現場の声をほぼ100%反映。現場の課題解決のためなら設備投資は惜しみません”

代表取締役 社長  
海野幸男さん



◆今回の訪問先は  
株式会社イーシーセンター  
所在地 / (本社) 静岡県富士市五貫島919  
(富士ステーション) 静岡県富士市大野61  
☎ (本社) 0545-64-2111  
(富士ステーション) 0545-31-1481



防塵フィルタを設けることでラジエータやオイルクーラなどの目詰まりを防ぐ iNDR搭載機の導入により、重機のオーバーヒートが激減。「同業者からiNDRの評判は聞いていましたが、その効果は想像以上で、コベルコ機の評価は急上昇しました」(海野さん)

### 最新モデルへの期待から 新型機のモニターに協力

現在、富士ステーションでは、コベルコの最新モデルであるSK75SRD-7Rのモニター機が稼働中だ。「コベル

コさんからモニター協力の申し出があり、現場環境のさらなる改善につながるのではという思いから承諾しました」と海野さん。では実際に使用する現場の声はどうか。作業管理を担当する深澤純一さんによると、最も驚いたのはエンジンのパワーだという。「エンジン出力が高まったと聞いていたので、重い物を持ち上げることの多い建設廃材のプラントで試用しています。前モデルでは少し苦しいかなと思えるような重量物でも、SK75SRD-7Rなら無理なく持ち上げられるため、オペレータもストレスなく作業ができています。作業効率も30%ほど上がったのではないのでしょうか。余裕が生まれた分、オペレータは搬入の誘導やお客様対応などに時間を割けるようになりました」

一方、SK75SRD-7Rで作業を行うオペレータの山本清司さんは、最新モデルの快適性を絶賛する。「キャブ内は、圧迫感がなくなり快適



作業管理担当の深澤さんは、SK75SRD-7Rのパワーあふれる作業性を高評価。「今後は、富士ステーションの中で最も粉塵の発生量が多い石膏ボードやRPFを製造するプラントでの試用も考えている」と話す

性能が格段に高まりました。ジョグダイヤルなど、がらりと変わった操作パネルに当初は驚いたものの、実際に使ってみるととても操作しやすく、自動車を思わせるスタイリッシュなデザインも気に入っています。エアコンも腰回りに風があたるので快適に作業できます」

イーシーセンターでは、富士ステーションにおいて近く7tクラスの重機2台の導入を予定しているが、すでに1台はSK75SRD-7Rに決定。もう1台については他メーカー機との間で選定を行っている最中だが、現場の声による設備投資を信条とする同社の経営方針に鑑みれば、SK75SRD-7Rがリードしているのではないだろうか。今後もコベルコ建機は、現場ニーズに応える製品開発を通じて、イーシーセンターの発展に寄与し続けるはずだ。



モニター機として稼働するSK75SRD-7Rは、建設廃材用プラントで、その選別やコンベアへの投入作業に従事。エンジン出力の向上によるパワーとスピードで、生産性向上に貢献している



こちらのQRコードから動画をご覧いただけます



1.SK75SRD-7Rに搭乗するのは、オペレータ歴10年の山本さん。「右側面の視界が広く、作業がしやすくなりました。車載カメラも3台搭載され、安全性は格段に高まっていると思います」2.「モニター画面が大きくなり、計器類が見やすくなりました。ジョグダイヤルは操作がしやすく、例えばエアコンの調節も簡単に行えます」(山本さん)3.SK75SRD-7Rは、iNDRの進化型である「iNDR+J」を搭載。機内からのジェット噴射により防塵フィルタに付着した粉塵を取り除く機能で、メンテナンスの手間がこれまで以上に軽減。2~3日何もなくても問題ないという





【コベルコの風】

日本全国、そして世界各国でのコベルコの活動をレポート!



コベルコ建機の屋内展示ブースの様子。建設業界の方はもちろん、さまざまな来場者に訪れていただきました

Wind 1 from  
千葉  
Chiba



「第2回建設・測量生産性向上展(CSPI-EXPO)」に出展!  
“手が届く近未来”を、デモンストレーションと実機で提示

2019年5月22～24日、「建設・測量生産性向上展(CSPI-EXPO)」が千葉県の幕張メッセで開催。219社・1150ものブースが出展し、3日間で3万8919人が訪れました。

昨年実施された第1回に引き続き出展したコベルコ建機では、「誰でも働ける現場へ」をコンセプトに掲げ、労働人口減少や安全対策、若手の育成などへのソリューションを提案。特に今

回は、昨年提示した現場の課題解決案を、さらに具体化して紹介。展示や講演、実機デモンストレーションや体験などに参加者の熱い視線が注がれました。

展示会初日には、プレス発表が行われ、コベルコ建機と日本マイクロソフト社が協業を宣言。今後両社は、働く人を中心とした建設現場のテレワークシステムである「K-DIVEコン

セプト」実現のために、アライアンスを推進することを発表しました。まず現場に隣接する事務所から実機を遠隔で操作し、さらに、5Gの活用で距離・時間の制約を受けずに遠隔操作できる可能性も提示。Microsoft Azureを活用し、建設業におけるオペレーションの円滑化と可視化、効率的なコミュニケーションの実現を目指すことが確認されました。

実際の展示では、屋内ブースに新型7tクラスの油圧ショベルSK75SR-7を展示。機能性とデザインの融合を追求した「パフォーマンス×デザイン」という製品コンセプトを初お披露目しました。また、クレーンの先行技術としてクレーン周囲検知システム「K-EYE<sup>PRO</sup>」やクローラクレーン組立支援システム「SMART ASSEMBLY」を参考出展。プレゼン発表の場で、そのメリットや効果、クレーン特有の留意点などについて語られました。さらに「K-DIVE コンセプト(遠隔操作体験ブース)」では、多くの来場者の方々に「誰でも働ける現場」の姿を、リアルなシミュレーション画面で体感していただきました。

一方、屋外ブースではホルナビ搭載機2台を展示。チルトローテータフルマシンコントロール搭載SK200-10を使用したデモンストレーションを実施し、3D設計データをもとにして、複雑な法面施工をレバー1本の操作で実現する様子に歓声が上がっていました。併せてiDigドーナザガイダンス搭載SK30UR-6のデモンストレーションも実施され、来場者が実際に搭乗。2Dマシンガイダンスで、掘削と敷きならしの両方の施工が可能になる魅力を体感していただきました。



日本マイクロソフト社との協業が発表され、将来の新たな働き方を提示。屋内ブースには「K-DIVEコンセプト(遠隔操作体験ブース)」が設置され、多くの来場者が体験に訪れていました



来場者は新型7tクラスの油圧ショベルSK75SR-7に搭乗して、その機能性やデザイン性を体感していました



屋外ブースではチルトローテータフルマシンコントロールの実機デモンストレーションを実施。iDigドーナザガイダンス搭載の機体には、来場者が実際に搭乗し、ICT施工の魅力を体験しました



ファンショップでは、コベルコグッズが販売され、コベルコファンでにぎわいました



大スクリーンでのプレゼンテーションでは、コベルコの多彩なソリューションを紹介

Wind 2 from  
愛知  
Aichi

コベルコ建機日本の中部支社展示会が今年も開催決定!

毎年恒例のコベルコ建機日本の中部支社展示会を、2019年9月14・15日に開催することが決まりました。当日は2019年夏に上市したばかりの最新機種であるSK75SR-7の展示や、中

古車即売会、実機によるデモンストレーションなどを予定。ご来場いただいたお客様に楽しんでいただける各種コンテンツを豊富に企画してお待ちしております。ぜひ、ご来場ください!



【開催概要】  
日時：2019年9月14日(土)・15日(日)  
場所：愛知県東海市南柴田町ハノ割138-18  
コベルコ建機日本(株) 中部支社

Wind 3 from  
兵庫  
Hyogo

コベルコ建機のクレーンが「神戸まつり」でパレード

2019年5月19日に兵庫県神戸市で、「第49回神戸まつり」が開催され、神戸市クレーンリース業協力会様がパレードに参加。中村重機商事株式会社様が所有するラフテレーンクレーン

LYNX160が街を練り歩きました。サンバのパフォーマンスがあるなど、毎年大盛況の神戸まつり。移動式クレーンの役割をより多くの方に知っていただく良い機会となりました。



パレードに参加したLYNX160

### 5月に新しい機械が納車!

新型ショベルはものづくりにおけるデザインから開発したのですね! 今年5月にSK260LC-10型が納車になります。私たちはオペレータとして楽しみに待っています! これからもよろしくお祈りします。クロスワードパズルも毎号楽しみにしています!

茨城県・(有) 神栖鋼機  
金本貴大さん



千葉県・(有) 長谷川産業  
石井久美子さん

### 『歴史的建造物誕生の秘密を探る!』を 読むうちに……

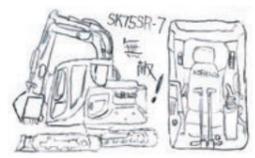
『歴史的建造物誕生の秘密を探る!』から読んでいますが、何年か読んでいううちにその他のすべての記事もしっかり読むようになりました! いつも楽しみにしています。今後よろしくお祈りします。

福岡県 匿名希望

### 『歴史的建造物誕生の秘密を探る!』が楽しみ!

毎号、『歴史的建造物誕生の秘密を探る!』の記事を楽しみにしています。今回も大変勉強になり、ぜひ訪ねてみたいと思いました!

岩手県 匿名希望



和歌山県・貴志川ゴルフ倶楽部  
澤田知哉さん

# 読者の広場

Fun! Fan! コベルコニュース

コベルコニュースへのご意見や、身のまわりで起こったあんなこと、こんなこと。さらに自慢のイラストやすてきな写真など、読者の皆様からのご投稿をご紹介します!

### 未来の面白い機械が見たい!

ショベルの運転が容易になったと聞きますが、家庭のゲーム機のようになればもっと作業がしやすくなるのと思います。そのうち無線になり、その先はもっとおもしろい機械が出てくるんだろうな。夢でもいいから見てみたいものです。

愛媛県・(株) 藤本重機  
菊川京子さん

### 海へ車を走らせながら ひとりごと

趣味の釣りを始めて数十年、春を待って海へ向かって今シーズンの活動開始! 海へと車を走らせながらも、重機を見ると、メーカー名やバケット容量を一人でブツブツ呟いてしまう自分に笑ってしまいます。

長野県 匿名希望

### 日本建築の美しさに圧倒!

吉備津神社の記事は初めて知ることが多く、驚きました。日本建築の美しさを見せつけられた感じです。国宝・吉備津造りに圧倒され、ほかろ薄れてしまうくらいでした。近いうちに必ず訪れたいと思います! 特集ありがとうございました!

新潟県・上村建設工業(株)  
島田敬子さん

### 律儀なコベルコと30年の付き合い

平成元年に7tのミニラフターを購入して以来、コベルコのカレンダーを年に1回、コベルコニュースは毎号、30年間送ってもらっています。コベルコは本当に律儀な会社です!

鳥取県・公陽クレーン(有)  
山中裕文さん



埼玉県・小田工業  
小田和成さん

### コベルコニュースの記事で勉強!

コベルコの建設機械を使った多種多様な業種の情報、勉強になっています! 今回のネックスピーカーの記事や吉備津神社の記事などとても興味を湧きました。経営のヒントや海外でのコベルコの活動——。今後いろいろな分野の情報を発信してください!

山口県 匿名希望



福岡県・日新メタル(株)  
山下直樹さん

### 楽しいイラスト、すてきな写真大募集!

読者の広場は皆様からの投稿で構成しています。本誌への感想や、身近で起こったできごとなど、お気軽にお寄せください。また、同時にイラストやお写真も募集しています。採用された方には、すてきなプレゼントを進呈いたします。ぜひご投稿ください。メールでのご投稿もお待ちしております。

\*メールには、会社名、所在地、電話番号、氏名、匿名希望の方はその旨を必ずご記入ください

✉ [Kobelconews-shm@kobelconet.com](mailto:Kobelconews-shm@kobelconet.com)

### Webサイトもご覧ください!

コベルコ建機Webサイト内の「Fun! Fan! コベルコ建機」ページでは、建機のペーパークラフト・ぬりえなどのダウンロード、グッズのオンラインショップなど充実のコンテンツをお楽しみいただけます!



## PRESENT

[プレゼント]

クロスワードパズル正解者の中から抽選で次の商品を進呈いたします。ふるってご応募ください。

※当選者の発表は、商品の発送をもって代えさせていただきます



5名様

A賞

### SK350LC-10のミニチュア

SK350LC-10の1/50スケールのモデル。リアリティを再現するために、細部までこだわり抜いてつくられた、今年発売の商品です



1名様

B賞

### BALMUDA The Toaster

最高の香りと食感を実現するバルミューダのトースター。スチームテクノロジーと完璧な温度制御で、パンの種類に合わせたおいしさを最大限に引き出します



10名様

C賞

### TSUBAME Flatware (大・小4本セット)

金属製洋食器の生産地・新潟県燕市でつくられるホーロー製カトラリー。ステンレスの上からホーローを塗布しているため、金属の匂いが料理につきにくく、味も変化しにくいという特長があります

※色は白か黒のいずれかとなります

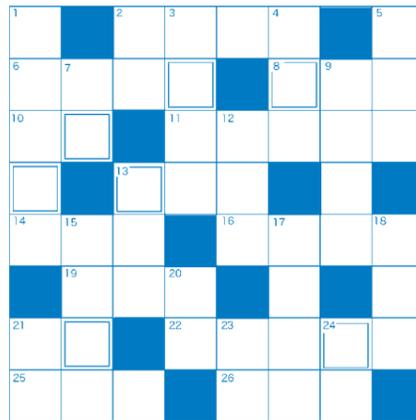
## CROSSWORD PUZZLE

[クロスワードパズル]

タテ・ヨコのカギをヒントにマス目を埋めてください。

二重マス目の文字を並べ替えてできた言葉を

専用はがきの解答欄(または、はがき)にご記入ください。



ヒント: 見上げる空にある、この季節の風物詩

答え:

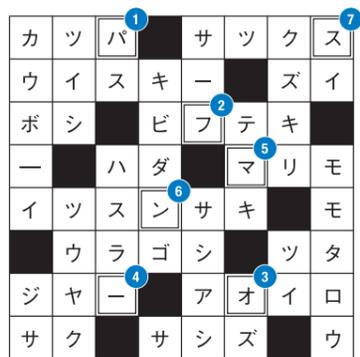
### タテのカギ

- 「棒が1本あったとき はっぱかなり」が有名
- 忙しいときは、その手を借りたい
- 泊まりたい宿を選んだら、なんの有無を確認する?
- 金属を溶かし、砂の型に流し込んでつくる。南部鉄器が有名
- ゼラチンが主成分の接着剤
- 災害時のライフラインの1つとして再注目
- 横浜、神戸、函館、新潟……あともう1つは?
- 屋台で有名な九州最大級の歓楽街
- 一度言ったことは必ず守る
- 「武士に○○○はない」
- 郵便局や銀行などで来訪者の対応をする場所
- 近くも遠くも見やすい○○○○両用眼鏡
- 千葉県市原市の「チバニアン」でプームに
- 新潟県を代表する特産品
- 可愛さ余って憎さ百〇〇
- 花、○○締め、○○造り
- 体操競技の種目。12m四方で演技を行う○○運動

### ヨコのカギ

- 結び方は「ブレンノット」が基本中の基本
- 今年、新潟市で150年を迎えたものといえば……
- 皮と餡でできた和スイーツ。
- 自分で手詰めするタイプも人気
- 人のさまざまな感情をあらわす四字熟語「○○哀楽」
- 新潟市で日本海に注ぐ日本最長の河川
- 毎日決めてしていること
- 中華料理の「ピータン」はアヒルの○○○
- 一般的には、おみくじで凶の一つ上
- 肉厚の高級干し椎茸。「冬菇」と書く
- プログラム上の間違い、欠陥
- 犯人不明のまま捜査打ち切り。事件は○○○○○入りに
- 「清香」「とよのか」「紅ほっぺ」はなんの種類?
- 名物を言い得た言葉
- 「火事と○○○は江戸の華」

### Vol.244 クロスワードパズル 正解発表



正解は「パフォーマンス」でした。多数のご応募ありがとうございました。

### Wチャンスのお知らせ

Vol.243~245にお寄せいただいたすべてのはがきを再抽選、50名様に記念品をプレゼントいたします。パズルへのご応募のほか、ご投稿、ご意見など、どうぞお気軽にお寄せください。

※当選者の発表は、商品の発送をもって代えさせていただきます

### 編集後記

いつもコベルコ建設機械ニュースをご愛読いただきありがとうございます。今号の特集はコベルコの「サービス」について。サービスとひとくちに言っても、お客様やお客様の機械に直接接する部門と、そうではない部門があります。さまざまな部門が協力して、お客様に最適なサービスを提供できるよう取り組んでおりますので、その一端を感じていただければ幸いです。

「こんな特集を見てみたい!」といったご要望もお待ちしております。はがきやメールで編集室までお気軽にご連絡ください。(T.H)

コベルコ建設機械ニュース 夏季号 2019年8月 Vol.245  
発行:コベルコニュース編集室  
企画・編集:日経BP/日経BPコンサルティング/リミックス